

分野	専門分野Ⅱ	授業科目	成人看護学概論	
受講学年	1学年 / 後期	単位/時間数	1単位 / 30時間	
担当者資格	看護師	専門経験有無	有	
学習目標	<ul style="list-style-type: none"> ・成人各期の身体的、社会的、精神的特徴を理解する。 ・成人各期の健康問題から健康教育、保健指導、患者教育の必要性を理解する。 ・成人期の対象への看護を学ぶ。 			
回数	学習課題	学習内容	方法	自己学習の指針
1	成人の特性や能力に応じたアプローチ	<p>成人の特徴</p> <p>生涯発達の特徴</p> <ul style="list-style-type: none"> ・成人各期の特徴 ・身体の発達と衰退 ・心理社会的発達 <p>現代の生活状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家族形態と機能 ・生活習慣・生活様式 ・職業の種類と就業環境 ・人生や健康にかかわる意識 ・成人の発達課題 ・成人の発達課題と関連する理論 <p>身体機能の発達</p> <ul style="list-style-type: none"> ・心理・社会および生活状況からみた特徴 <p>成人の役割</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家族における役割 ・社会における役割 	講義	看護のための教育学: 発達課題に関連する理論の復習
2	成人の特性や能力に応じたアプローチ	<p>能力に応じたアプローチ</p> <p>自立した存在</p> <ul style="list-style-type: none"> ・セリフケア能力 ・自己制御と自己効力感 <p>独自の信念や行動パターンをもつ存在</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コンプライアンスの促進要因 ・ストレスコーピング ・成人教育の原理 <p>家庭・職場で責任ある役割を担う存在</p> <ul style="list-style-type: none"> ・役割葛藤、役割交代 	講義	看護のための社会学の復習 看護のための教育学の復習 心理学: ストレスとコーピングの復習 看護のための社会学の復習
3	成人の健康問題の特徴	成人各期における健康問題 青年期、壮年期、向老期	講義	
4	成人の健康問題の特徴	<p>成人の健康問題の特徴</p> <p>生活習慣に関連する健康問題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生活習慣病の形成と予後 ・生活習慣病の発生状況 <p>職業に関連する健康障害</p> <ul style="list-style-type: none"> ・就業条件・環境と病気 ・職業病の発生状況 <p>ストレスに関連する健康障害</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ストレスの種類と生理的適応 ・生活ストレスと健康障害 ・ストレス関連疾患の発生状況 	講義	
5	成人保健の動向	<p>成人人口の動向</p> <p>死亡と死因</p> <p>疾病構造と受療の動向</p>	講義	公衆衛生の復習 看護学概論の復習
6	健康の保持・増進、 疾病の予防に向けた看護	<p>一次予防・二次予防・三次予防</p> <p>一次医療・二次医療・三次医療</p>	講義	
7	健康の保持・増進、 疾病の予防に向けた 看護	<p>生活習慣病の予防</p> <ul style="list-style-type: none"> ・適正な生活習慣の指標 ・定期健康診断システムと受診者 ・職業性疾患の予防 ・適切な作業環境と労働条件 ・職業病のアセスメントと対処 ・ストレスの予防と緩和 ・ストレス状況と要因のアセスメント ・ストレスの緩和、解決方法の指導 	講義	疾病構造と受療の動向の復習
評価方法	筆記試験			
テキスト	成人看護学概論（ヌーベルヒロカワ）	随時提示		
参考図書 文献	国民衛生の動向			
備考				

分野	専門分野Ⅱ	授業科目	成人の看護過程と技術②	
受講学年	2学年 / 後期	単位/時間数	1単位 / 30時間	
担当者資格	看護師	専門経験有無	有	
学習目標	事例学習を通して成人期の特徴を踏まえた看護過程の展開の基礎を学ぶ。技術演習を通して、成人期にある患者の病態・症状・検査・治療を理解でき、生活への影響についてアセスメントができ、その状況に応じた看護技術がわかる。			
回数	学習課題	学習内容	方法	自己学習の指針
1～2回	グループで立案した看護計画に基づいて、必要な援助を抽出することができる	看護過程の事例での看護上の問題点に対して個人で立てた看護計画を提示する	講義 グループ学	①看護過程方法論 ②事例で扱う疾患と治療 ①②の資料をそろえる 内容の復習は必須 技術実践するための準備
3～4回	場面に適した看護が考えられる	場面に対して、グループで看護計画を立てる 場面を実際演技する中で、観察力・アセスメント力・技術力が身に付く	講義 グループ学	
5～7回	場面に基ついて、模擬患者に看護援助を実施する演習を行える	模擬患者を設定して、場面に適した看護を提供できる ふり返りから看護過程と実際の看護とのつながりや、状況に応じた看護を考えられる	講義 グループ学 演習	
評価方法	事例提出	場面に適した看護計画 提出	演習の参加度	
テキスト				
参考図書文献	山岸節子編集「自分で描ける病態関連図」 照林社 系統看護学講座 成人看護学[3] 循環器 医学書院 病気がみえる 循環器系 メディックメディア			
備考	演習が実施できる準備 必要なスタッフ・物品の確保			

分野	専門分野Ⅱ	授業科目	成人の看護過程と技術①	
受講学年	2学年 / 後期	単位/時間数	1単位 / 30時間	
担当者資格	看護師	専門経験有無	有	
学習目標	事例学習を通して成人期の特徴を踏まえた看護過程の展開の基礎を学ぶ。			
回数	学習課題	学習内容	方法	自己学習の指針
1~8	病像がまとめられる	<ol style="list-style-type: none"> 1. 関連図が描ける 2. 関連図に基づいて、健康障害の種類がまとめられる 3. 関連図に基づいて経過が整理でき必要な情報がアセスメントできる 4. 経過のアセスメントに基づいて健康の段階があきらかにできる 5. 健康障害の種類、健康の段階を統合して病像が描ける 	担当教師に指導を受けながら、期限までに個人で事例学習をすすめる。	<ol style="list-style-type: none"> ①看護過程方法論 ②事例で扱う疾患と治療検査、看護 ①、②の資料をそろえる内容の復習は必須
	病像から生活の視点を導き出せる 生活像がまとめられる	<ol style="list-style-type: none"> 1. 病像から導き出した生活の視点と基本的な生活のとらえかたに基づき、生活像の各項目の情報収集の視点があげられる 2. 視点に基づいて情報があげられ、アセスメントできる 3. 生活像の各項目の結論が描ける 4. 結論を統合して生活像が描ける 		
	社会像がまとめられる	<ol style="list-style-type: none"> 1. 社会像の要素を基に情報があげられ、アセスメントできる 2. アセスメントを統合して社会像が描ける 		
	病像・生活像・社会像を統合して全体像が描ける 全体像から看護目標が導き出せる			
	看護目標の根拠、 具体策の裏付けが 患者の事実、一般論に 基づいて整理できる			
	具体策があげられる			
評価方法	絶対評価 提出期限			
テキスト				
参考図書 文献	山岸節子編集「自分で描ける病態関連図」照林社 系統看護学講座 成人看護学[7] 医学書院			
備考				

分野	専門分野Ⅱ	授業科目	成人期における終末期の看護	
受講学年	2学年 / 後期	単位/時間数	1単位 / 30時間	
担当者資格	看護師	専門経験有無	有	
学習目標	肝硬変、大腸がんの終末期の患者の看護を通して、終末期の対象の特徴を理解し、苦痛の緩和について理解する。 終末期の死の受容過程について理解し、対象への看護を理解する。			
回数	学習課題	学習内容	方法	自己学習の指針
1～8	終末期にある患者の理解	<p>終末期にある人の特徴</p> <p>終末期にある患者の身体的特徴</p> <p>終末期にある患者の心理的・社会的特徴</p> <p>終末期にある患者の死にゆくことに対する態度</p> <p>終末期にある患者の家族</p> <p>終末期にある患者への看護援助</p> <p>終末期にある患者のQOL</p> <p>終末期にある患者の持つ力を支える援助</p> <p>終末期にある患者への意思決定を支える援助</p> <p>悪いニュースの伝え方</p> <p>終末期にある患者への心理的援助</p> <p>終末期にある患者の家族への援助</p> <p>終末期看護における活用理論</p> <ul style="list-style-type: none"> ・死の受容過程 ・悲嘆 <p>終末期における緩和ケア</p> <p>症状メカニズムとそのマネジメント</p> <ul style="list-style-type: none"> ・倦怠感 ・痛み ・浮腫 ・呼吸器症状 ・腹部症状 ・精神症状 <p>薬剤の活用とその副作用への対処方法 臨床薬理学の復習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・痛みに対する薬剤とその副作用対策 ・倦怠感に対する薬剤とその副作用対策 ・精神症状に対する薬剤の活用と副作用対策 <p>終末期のコミュニケーション技術とコミュニケーションの技術 人間関係基礎論の復習</p> <p>心理的支援の方法</p> <p>家族・遺族ケアの方法 在宅看護：終末期の看護</p> <p>医療従事者のストレスとその対処方法 グリーフケアの復習</p>	講義	経過別看護：終末期の復習 成人看護学概論の復習
9～14	終末期にある患者の看護	<p>臨終時の看護</p> <p><肝硬変のある患者の看護> 講義</p> <p>終末期にある患者の看護</p> <p>肝硬変の成りゆき</p> <p>肝硬変の症状と看護</p> <p>腹水・黄疸・肝性脳症・食道静脈瘤 第1～5回の授業の復習</p> <p>終末期にある肝硬変の患者の看護</p> <p>事例</p> <p>症状に対する緩和ケア</p> <p>患者と家族への心理的支援</p>	<p>看護構造機能論Ⅰ：消化器系の復習</p> <p>疾患と治療Ⅱ消化器の復習</p>	クラッシャーで問題を配信しますので、活用してください。
15	まとめ			
評価方法	テストによる評価			
テキスト	成人看護学 緩和・ターミナルケア看護論 ヌーヴェル・ヒロカワ 系統看護学講座 専門9 成人看護学5 消化器疾患患者の看護 医学書院 自分で描ける病態関連図 看護過程に沿った対症看護 第4版 病気がみえる1 消化器 メディックメディカ 随時提示			
参考図書文献自己学習に関する指針	内富庸介他編集：がん医療におけるコミュニケーション・スキルー悪い知らせはどう伝えるかー2007年 医学書院 川嶋みどり他監修 経過別看護 メジカルフレンド社 系統看護学講座 専門9 成人看護学5 消化器疾患患者の看護 医学書院 未知なる生命・ヒト/THE HUMAN BODY 第7巻 ハービー安らかに THE END OF LIFE			
備考				

分野	専門分野Ⅱ	授業科目	成人期における急性期の看護	
受講学年	2学年 / 前期	単位/時間数	1単位 / 30時間	
担当者資格	看護師	専門経験有無	有	
学習目標	循環機能障害のある患者の看護と手術療法を受ける患者の看護から急性期の対象の特徴を理解し、健康の回復のための看護を理解できる。			
回数	学習課題	学習内容	方法	自己学習の指針
1～2回	急性期にある患者の理解	急性期とは 急性期看護の考え方 ・急性期とは ・急性期の対象 ・患者の身体的特徴 ・患者の心理的特徴 ・患者の社会的特徴 ・家族の特徴 急性期看護の特徴 ・生命維持 ・悪化防止 ・苦痛の緩和 ・二次障害・合併症予防 ・日常生活援助 ・家族援助 ・治療の実施と介助 ・合併症予防 危機理論 ・Finkの危機理論 急性期看護援助に必要な概念 ・モニタリング ・疼痛管理 ・合併症予防 ・インフォームドコンセント ・生命倫理	講義	経過別看護:急性期の復習 成人看護学概論:危機理論の復習
3～7回	手術療法時の看護	<大腸がんの手術療法を受ける患者の看護(ストーマ造設)> 術前の看護 ・術後合併症のリスクアセスメント ・合併症の予防処置と指導 ・不安のアセスメントと援助 術後の看護 ・疼痛・苦痛の緩和 ・術後合併症の予防 ・ドレーズと与薬の管理(抗生剤を含む) ・術後機能障害と生活制限 ・手術・ストーマ造設への精神的支援	講義	人間関係基礎論の復習 総合医療論の復習 看護構造機能論Ⅰ:消化器の復習 疾患と治療Ⅱ:消化器の復習 治療論:手術療法の復習 症状別看護:下痢・便秘の復習 第2回:モニタリングの復習 :疼痛管理の復習 :合併症の復習 :インフォームドコンセントの復習 :生命倫理 臨床薬理学の復習
8～13回 14回	循環機能障害のある患者の看護	<心不全の患者の看護> 病態・症状のメカニズム 検査 治療 心不全の患者の看護 症状に対する 治療に対する 安静に応じた日常生活の援助 <心臓の手術を受ける患者の看護> 心臓弁膜症 病態 心臓・大血管の手術が身体に及ぼす影響 人工心肺 術式の特徴 合併症 心臓・大血管の手術後の看護	講義	第2回:危機理論の復習 看護構造機能論Ⅰ:循環器の復習 疾患と治療Ⅰ:循環器の復習 症状別看護の復習 治療論:リハビリテーションの復習 手術療法の復習
第15回	まとめ・試験			
評価方法	テストにより評価する			
テキスト	系統看護学講座 専門Ⅱ 成人看護学5 消化器疾患の看護 医学書院 病気がみえるVol. 1 消化器 第4版 MEDIC MEDIA 南江堂 成人看護学 急性期看護Ⅰ 概論・周手術期看護 阿部 光樹 他 系統看護学講座 専門7 成人看護学3 循環器疾患の看護 医学書院 病気がみえる2 循環器 高木永子 監 看護過程に沿った対症看護 改訂版 学研			

分野	専門分野Ⅱ	授業科目	成人期における回復期の看護	
受講学年	2学年 / 前期	単位/時間数	1単位 / 30時間	
担当者資格	看護師	専門経験有無	有	
学習目標	運動機能障害のある患者への看護と乳房の手術を受ける患者への看護、薬物療法を受ける患者の看護を通し、ボディイメージの変容や機能障害を受容して生活行動の再構築の時の看護が理解できる。			
回数	学習課題	学習内容	方法	自己学習の指針
1～6回	運動機能障害のある患者への看護	<p><脊髄損傷のある患者の看護></p> <p>ボディイメージの変容・機能障害の受容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・機能障害のアセスメント ・機能障害受容への影響因子 ・障害受容の段階 <p>生活行動再獲得</p> <ul style="list-style-type: none"> ・機能障害と日常生活動作の制限のアセスメント ・日常生活行動への援助 ・社会復帰への援助 ・代償機能の獲得と介護指導 ・介護力のアセスメントと社会資源の活用 ・セクシャリティーに関わる援助 <p>ボディイメージの変容・機能障害適応への援助</p> <ul style="list-style-type: none"> ・役割交代、職場調整 ・ピアグループによる支援 ・身体障害者福祉法の適用と保護 ・社会参加への援助 	講義	看護構造機能論Ⅲ：骨格系・筋系の復習 成人看護学：成人期における急性期の看護 ：インフォームドコンセント 治療論：リハビリテーションの復習
7～9回	まとめ 薬物療法を受ける患者の看護	<p>回復期における看護のまとめ</p> <p><化学療法を受ける患者の看護> * 白血病</p> <p>全身機能のアセスメントと対処</p> <p>抗がん薬の投与方法・管理</p> <p>副作用に対する看護</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ボディイメージ ・自己概念/自尊感情 ・役割交代、職場調整 ・家族のライフサイクルと介護負担 ・介護力のアセスメントと社会資源の活用 ・復帰スタイルの選択・決定 	講義	看護構造機能論Ⅱ：血液・免疫系の復習 疾患と治療Ⅲ：自己免疫・血液の復習 臨床薬理学の復習
10～14回	乳房の手術を受ける患者の看護	<p><乳房の手術を受ける患者の看護></p> <p>ボディイメージの変容・機能障害の受容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「喪失」体験について ・機能障害のアセスメント ・機能障害受容への影響因子 ・障害受容の段階 <p>ロイの適応理論</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ボディイメージ 生活行動再獲得 ・日常生活行動への援助 ・社会復帰への援助 ・介護力のアセスメントと社会資源の活用 ・復帰スタイルの選択・決定 <p>ボディイメージの変容・機能障害適応への援助</p> <ul style="list-style-type: none"> ・役割交代、職場調整 	講義	成人看護学：成人期における急性期の看護 ：インフォームドコンセント 治療論：リハビリテーションの復習
15回	まとめ・試験			
評価方法	筆記試験			
テキスト	講師により随時提示 ・系統看護学講座 成人看護学【10】運動器 医学書院 ・成人看護学概論 ヌーヴェルヒロカワ ・経過別看護 メヂカルフレンド社			
参考図書文献				
備考				

分野	専門分野Ⅱ		授業科目	成人期における慢性期の看護
受講学年	2学年 / 前期		単位/時間数	1単位 / 30時間
担当者資格	看護師		専門経験有無	有
学習目標	慢性閉塞性肺疾患(COPD)患者と血液透析を受ける患者の看護を通して、慢性期の患者の特徴を理解して、患者が自らの意志で決定し、自分の生活上の制限の代償方法、合併症・危険の予防方法を患者自身がセルフマネジメントを行うための看護について理解する。			
回数	学習課題	学習内容	方法	自己学習の指針
1~3	慢性期にある患者の理解	慢性期とは 慢性期看護の特徴 慢性期にある疾患の特徴 慢性期疾患の治療の特徴 慢性期にある患者の治療と・療養環境 慢性期にある患者の心理・社会的特徴 慢性期にある患者の特徴 ・病みの軌跡 疾病がライフサイクルに及ぼす影響 慢性期にある患者と家族 看護援助・患者教育に活用する理論 ・セルフケア理論(オレム) ・学習理論 ・自己効力感 ・役割理論 慢性期看護援助に必要な概念 ・エンパワーメント ・意思決定 慢性的な経過をたどる健康障害への看護 セルフコントロールへの援助 ・心身のモニタリング ・受診・治療の継続 ・生活習慣・ライフスタイルの変更 ・自己効力感強化の方法 ・自己概念の修正 社会的支援の獲得 ・患者・家族会による支援 ・特定疾患治療研究事業の適応と保護	講義	経過別看護:慢性期の復習 :病みの軌跡の復習 看護学概論Ⅰの復習 看護のための教育学の復習 看護のための社会学と成人看護学概論の復習 人間関係基礎論の復習 社会保障と社会福祉の復習
4~8	呼吸器障害のある患者の看護	<COPDのある患者の看護> 呼吸器障害の観察とアセスメント 呼吸器障害のおもな看護 ・呼吸リハビリテーションの指導 (運動療法・口すぼめ呼吸・排痰法など) ・薬物療法の継続指導 ・在宅酸素療法の生活指導 ・急性増悪の予防指導 ・症状マネジメント ・NIPPV(非侵襲的陽圧換気)装着時の看護 包括的リハビリテーション COPD患者と家族への心理的支援 COPD患者の社会的支援	講義	看護構造機能論Ⅰ:呼吸器系の復習 疾患と治療Ⅰ:呼吸器の復習 人間関係基礎論の復習 第1~3回の授業の復習
9~14	腎機能障害のある患者の看護	<血液透析を受ける患者の看護> 腎機能障害の観察とアセスメント ・透析導入前/導入期/維持期/慢性期 腎機能障害のおもな看護 ・各期の食事管理のための指導 ・各期体重・水分管理のための指導 ・シャント管理のための指導 ・薬物療法の継続指導 合併症予防の早期発見のための指導 透析導入に伴うライフスタイルの変更への援助 社会復帰(役割変化)のための援助 透析患者と家族への心理的支援 透析患者の社会的支援	講義	看護構造機能論Ⅱ:腎臓の復習 疾患と治療Ⅳ:腎不全の復習 人間関係基礎論の復習 第1~3回の授業の復習
第15回	まとめ テスト			
評価方法	テストによる評価			
テキスト	成人看護学 セルフマネジメント ナーシンググラフィカ25 成人看護学 慢性期看護論 ヌーヴェルヒロカワ 阿部 信一 他 系統看護学講座 専門12 成人看護学8 腎・泌尿器 医学書院 医学書院 成人看護学2 呼吸器 メディクメディア 病気がみえる4 呼吸器			
参考図書文献 備考				

分野	専門分野Ⅱ	授業科目	老年看護学概論	
受講学年	1学年 /	単位/時間数	1単位 / 15時間	
担当者資格	看護師	専門経験有無	有	
学習目標	ライフサイクルの中で老年期をとらえ、高齢者の特徴と動向、その健康生活を理解し、高齢社会における老人医療と福祉の意義について学ぶ。さらに、高齢者に対する保健活動と看護の役割を学ぶ。			
回数	学習課題	学習内容	方法	自己学習の指針
1	高齢者の理解 (高齢者の定義)	1)高齢者の理解と一般的特徴 ①加齢と老化 ②加齢に伴う身体的・心理的・社会的側面の変化 2)高齢者の定義 3)発達と成熟	講義	身近に居る高齢者を観察してみよう
2.3	超高齢社会と社会保障	①老年期の発達課題 ②スピリチュアリティ ③健康と生活 1)超高齢社会の輪統計的輪郭 ①超高齢社会の現状 ②高齢者と家族 ③高齢者の健康状態 ④高齢者の死亡 ⑤高齢者の暮らし 2)高齢社会における保健医療福祉の動向 ①高齢者にかかわる保健医療福祉システムの構築 ②介護保険制度の整備 ③高齢者を支える他職種連携と看護活動の多様化 3)高齢者の権利擁護 ①高齢者に対するスティグマと差別 ②高齢者虐待 ③身体拘束 ④権利擁護のための制度	講義	ライフサイクルと小児期・成人期の発達課題を復習しておく
4.5	老年看護学のなりたち	1)老年看護学のなりたち ①老年看護学教育の発展 ②老年看護の定義 2)老年看護の役割 3)老年看護における理論・概念の活用 4)老年看護に携わる者の責務		
4.5	高齢者のヘルスアセスメント	1)ヘルスアセスメントの基本 ①ヘルスアセスメントの枠組み ②高齢者総合機能評価 2)身体に加齢変化とアセスメント	講義	
6.7	高齢者の保健医療福祉施設および居住施設における看護	1)介護保険施設 ① 特別養護老人ホームの特徴と看護 2)地域密着型サービス ③ グループホームの特徴と看護	グループワーク 発表	施設の特徴と施設を利用する高齢者の特徴と看護を学ぶ
8	試験			
評価方法	授業参加態度、レポート、ペーパーテスト			
テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護 病態・疾患論 医学書院			
参考図書文献	国民衛生の動向(最新版) 看護のための人間発達学 医学書院 高齢社会白書(内閣府高齢者会対策ホームページ) 厚生労働省大臣官房統計情報部ホームページ			
備考				

分野	専門分野Ⅱ	授業科目	高齢者の日常生活援助技術	
受講学年	2学年 / 前期	単位/時間数	1単位 / 30時間	
担当者資格	看護師	専門経験有無	有	
学習目標	<p>高齢者の加齢に伴う変化や疾病の特徴を理解し、健康の段階に応じた看護を学ぶ。そして、看護の基本となる高齢者の尊厳とアドボカシーについて学ぶ。</p> <p>さらに、高齢社会における老人医療と福祉の意義について理解し、高齢者に対する保健活動と看護の役割を学ぶ。</p>			
回数	学習課題	学習内容	方法	自己学習の指針
第1回	1. 介後にあたって	1) 自立をめざすために 2) よりよい介護をするために	講義	生活行動援助技術の「環境」を復習
	2. 居室の環境	1) 居室としての望ましい条件について 2) ベッドの特徴と選び方 3) 寝具について 4) ベッドメイキング	講義	
第2回	3. 移動	1) からだを動かすときの留意点 2) 横への移動動作 3) 寝返り動作 4) 起き上がり動作 5) 立ち上がり動作	講義 演習	生活行動援助技術の「環境」を復習
第3,4回	4. 車椅子での移動	1) 車椅子を選ぶ場合 2) 車椅子の種類 3) 車椅子への移乗	講義 演習	生活行動援助技術の「環境」を復習
	5. 食事	1) 食事摂取の過程と加齢に伴う変化および必要な援助 2) 食事の意義・食事摂取能力のアセスメント 3) 食事のすすめ 4) 食べる時の留意点 5) 摂食障害時の援助（献立・調理方法の工夫） 6) 嚥下障害時の援助 食事介助 7) 口腔内の清潔	講義 演習	生活行動援助技術の「環境」を復習
第5回	6. 排泄	1) 排泄のしくみと排泄障害 2) 排泄の介助をするときの心づかい 3) 排泄障害のアセスメント 4) 排泄に対する援助の基本 5) 排泄補助用具・看護・介護用品の工夫 6) 尿失禁時の援助 7) 便失禁・便秘時の援助 8) 排泄ケア用品を使う場合	講義 演習	生活行動援助技術の「環境」を復習
第6,7回	7. 着替え	1) 高齢者の衣服 2) 衣服の着脱	講義 演習	生活行動援助技術の「環境」を復習
	8. 清潔	1) 清潔の目的 2) 朝夕の身だしなみ、住環境、 3) 清潔のアセスメント 4) 清潔に対する援助の基本 5) 入浴・清拭・足浴・口腔ケア・洗髪	講義 演習	生活行動援助技術の「環境」を復習
第8回	9. コミュニケーション	1) 高齢者のコミュニケーションの特徴 2) 高齢者におこりやすいコミュニケーション障害援助 3) コミュニケーション障害のアセスメントと看護ケア	講義	生活行動援助技術の「環境」を復習
第9回	10. 生活リズムと看護ケア	1) 高齢者と生活リズム 2) 高齢者に特徴的な変調 3) 生活リズムのアセスメント 4) 生活リズムを整える看護ケア	講義	生活行動援助技術の「環境」を復習
第10回	11. 床ずれ(褥瘡)の予防)	1) 原因・誘因 2) しやすい部位 3) 経過 4) 予防・手当	講義	生活行動援助技術の「環境」を復習
第11, 12回	10. 在宅での看取りの要件			
	11. 癒しのハンドケア		講義・演習	
	12. リラクゼーション 12. 介護者の健康管理		講義・演習	

<p>第13,14回</p> <p>第15回</p>	<p>13. 災害時高齢者生活支援</p> <p>テスト</p>	<p>1)災害について 2)災害が高齢者に及ぼす影響 3)接するときの心づかい 4)気をつけたい病気や症状 5)知って役立つ技術 6)尿失禁時の援助 7)ボランティアの心得</p>	<p>講義 演習</p>	
<p>評価方法</p>	<p>授業参加態度、ペーパーテスト</p>			
<p>テキスト</p>	<p>鳥羽研二 著 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護 病態・疾患論 医学書院 北川公子 他著 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学 医学書院 健康生活支援講習テキスト 日本赤十字社</p>			
<p>参考図書文献</p>	<p>老年期に理解しておくこと 国民衛生の動向(最新版) 竹中星郎 著 「鏡の中の老人」 ワールドプランニング 認知症介護 2007 秋号 日総研 認知症高齢者の在宅介護 地域ケア政策ネットワーク</p>			
<p>備考</p>				

分野	専門分野Ⅱ	授業科目	高齢者の健康障害時の看護	
受講学年	2学年 / 前期	単位/時間数	1単位 / 30時間	
担当者資格	看護師	専門経験有無	有	
学習目標	高齢者の健康障害時の問題を理解し、障害をもつ老年者とその家族に対する看護を理解する。その際、高齢者の生命維持だけでなく、QOLの視点から予防活動における看護の考え方や援助方法を学ぶ。			
回数	学習課題	学習内容	方法	自己学習の指針
1	機能低下、障害を有す対象の理解	1.健康障害のある老年者と家族の理解 1)老年期に特徴的な疾患の特徴 2)反応の特徴	講義	成人看護学各論参照
2, 3, 4 5, 6	機能低下、障害を有す対象への看護	2.健康障害のある高齢者と家族の看護 1)日常生活の援助 ①コミュニケーション ②食 ③排泄 ④活動(運動) ⑤睡眠 ⑥清潔 ⑦環境 ⑧性 2)経過に基づく看護 3)治療・処置に基づく看護 4)疾患および諸症状に基づく看護 (高血圧症,虚血性心疾患,糖尿病 脳血管障害,パーキンソン病,肺炎 変形性脊椎症,骨粗鬆症,変形性関節症 大腿骨頸部骨折,白内障 胃・十二指腸慢性閉塞性肺疾患 老人性皮膚掻痒症貧血) 5)運動障害に基づく看護 6)意識障害に基づく看護 7)高次機能障害に基づく看護 8)感覚障害に基づく看護 9)嚥下障害に基づく看護	講義	各成人看護学援助論参照 脳・神経疾患患者の看護 運動器疾患患者の看護
7, 8			講義 演習	(脳・神経系, 運動器参照)
9	廃用症候群を伴う対象の看護	3.廃用症候群のある老年者の看護		
10	寝たきり状態にある対象の看護	4.寝たきり状態にある老年者の看護		
11, 12 13, 14	認知症のある対象の看護	5.認知症のある老年者の看護	講義 演習	
15	試験	高齢者の健康障害時の看護		
評価方法	ペーパーテスト			
テキスト	鳥羽研二 著 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護 病態・疾患論 医学書院 北川公子 他著 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学 医学書院 武村信彦 著 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学7 脳・神経 医学書院 尾上 尚志 他著 病気がみえるvol.⑦ 脳・神経 第2版 2017 メディックメディア			
参考図書 文献	大塚真理子 他著 メディサイト クイックマスターブック 老年看護学 1997 医学芸術社 鎌田ケイ子 他著 新版看護学全書看護学 第30巻 老年看護 2000 メヂカルフレンド社 金子満雄 著 老人性痴呆の正しい知識 1989 南江堂 その他の文献は適宜提示する。 武田宜子 他著 系統看護学講座 別巻 リハビリテーション 2018 第6版第4刷 医学書院			
備考				

分野	専門分野Ⅱ	授業科目	高齢者の看護過程	
受講学年	2学年 / 前期	単位/時間数	1単位 / 15時間	
担当者資格	看護師	専門経験有無	有	
学習目標	事例(脳梗塞の高齢者)学習を通して看護過程の展開の基礎を学ぶ。 高齢者の特徴を理解し、問題を多面的にとらえ、看護を実践することができるように、必要な看護過程の考え方を習得する。			
回数	学習課題	学習内容	方法	自己学習の指針
1～15	オリエンテーション 病像がまとめられる	1. 事例学習の進め方 1. 脳梗塞の関連図が描ける 2. 関連図に基づいて、脳梗塞の成り行きがまとめられる 3. 関連図に基づいて経過が整理でき必要な情報がアセスメントできる 4. 経過のアセスメントに基づいて健康の段階があきらかにできる 5. 1～4を統合して病像が描ける	グループワーク	①看護過程方法論 ②事例で扱う疾患と治療検査、看護 ①、②の資料をそろえる 内容の復習は必須
	病像から生活の視点を導き出せる 生活像がまとめられる	1. 病像から導き出した生活の視点と基本的な生活のとらえかたに基づき、生活像の各項目の情報収集の視点があげられる 2. 視点に基づいて情報があげられ、アセスメントできる 3. 生活像の各項目の結論が描ける 4. 結論を統合して生活像が描ける		
	社会像がまとめられる	1. 社会像の要素を基に情報があげられ、アセスメントできる 2. アセスメントを統合して社会像が描ける		
	病像・生活像・社会像を統合して全体像が描ける 全体像から看護目標が導き出せる 看護上の問題があげられる 問題の裏付け、問題となる根拠が患者の事実、一般論に基づいて整理できる 期待される結果があげられる 具体策があげられる			
評価方法	絶対評価 提出期限 (1事例で評価)			
テキスト				
参考図書文献	山岸節子 編集「自分で描ける病態関連図」照林社 武村信彦 著 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学7 脳・神経 医学書院 尾上尚志 他著 病気がみえるvol.⑦ 脳・神経 第2版 2017 メディックメディア 鳥羽研二 著 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護 病態・疾患論 医学書院 北川公子 他著 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学 医学書院 武田宜子 他著 系統看護学講座 別巻 リハビリテーション 2018 第6版第4刷 医学書院			
備考				

分野	専門分野Ⅱ	授業科目	小児看護学概論	
受講学年	1学年 / 後期	単位/時間数	1単位 / 15時間	
担当者資格	看護師	専門経験有無	有	
学習目標	・現代の子どもと家族の概況を理解し、小児看護の役割・課題を理解する ・小児看護の対象である小児と家族を理解する			
回数	学習課題	学習内容	方法	自己学習の指針
1 2	小児看護の特徴 と理念	小児看護のめざすところ 小児看護の対象 小児看護の目標と役割 小児と家族の諸統計 小児看護の変遷 小児看護における倫理 子どもの権利 小児看護の変遷課題	講義 DVD	概論第1章 母性看護学
3.4.5	成長・発達	形態的成長の理解 身長・体重・胸囲・頭囲 生歯・骨の発育など 機能的発達の理解 呼吸機能 循環機能 消化機能 腎・排泄 血液・免疫 脳神経・感覚機能 運動機能・精神機能 言語機能 など 小児各期の成長・発達 新生児期 乳児期 幼児期 学童期 思春期 青年期	講義 グループ ワーク	概論第2章 解剖・生理学 自己の幼少時の成長 記録(母子手帳・写真)
6	成長・発達に関する 理論	成長・発達のすすみ方 スキャモン 成長・発達に関する理論の理解 エリクソン ピアジェ ブリッジス ボウルビー	講義 DVD	
7	成長・発達の評価	成長の評価 発育の評価 カウプ指数・ローレル指数・肥満度 発達の評価 デンバー式発達スクリーニング	講義	
8	まとめ 試験			
評価方法	筆記試験 (関50点分田村50点分)			
テキスト	小児看護学1 小児看護学概論 小児臨床看護総論 医学書院			
参考図書 文献	・小児の発達と看護 メディカ出版・国民衛生の動向 ・目でみるからだのメカニズム 医学書院 ・上田 礼子 生涯人間発達学 三輪書店 1996			
備考	・あらかじめ予定された発表会などの準備は、当日までに行う。(特に、資料等の配布) ・グループワーク等の演習・ワークの進め方について不明な点は担当教師に、早めに確認する。			

分野	専門分野Ⅱ	授業科目	健康障害のある小児看護	
受講学年	2学年 / 後期	単位/時間数	1単位 / 30時間	
担当者資格	看護師	専門経験有無	有	
学習目標	変化の激しい経過をたどる小児とその家族について理解する 小児期に起こりやすい健康障害の特徴について理解し、その援助がわかる 様々な状況にある小児と家族の看護が理解できる			
回数	学習課題	学習内容	方法	自己学習の指針
1回	病気や入院が小児と家族に与える影響と看護	疾病・障害が小児と家族に与える影響 急性期の看護 小児外来の特徴	講義	教科書 ピアジェの認知発達理論
2回 3 14回	小児期に起こりやすい健康障害(症状・疾患)とその看護	発熱・嘔吐・下痢・発疹・脱水 感染症 麻疹 風疹 水痘 ムンプス 等 百日咳 ssss 溶連菌 呼吸器系 肺炎 細気管支炎 マイコプラズマ RSウイルス 消化器系 胃腸炎 腸重積 肥厚性幽門狭窄症 ヒルシュスプルング病 循環器系 川崎病 SIDS 心室中隔欠損症		教科書 症状別看護の復習 関連図の復習
	検査や処置を受ける子どもと家族の援助	吸入 吸引 点滴 採血 採尿 ほか検査・処置時の看護 プレパレーション	演習	
	変化の激しい様々な場面の小児看護	救急処置を必要とする小児と家族の看護 子どもの虐待と看護 災害時における子どもへのケア	講義	
	手術を受ける小児と家族の看護	ファロー四徴症の小児と家族の看護	講義	手術療法の復習
15回	まとめ 試験			
評価方法	筆記試験 課題提出状況 ミニテスト 参加状況			
テキスト	小児看護学概論 小児臨床看護総論 小児臨床看護各論		医学書院 医学書院	
参考図書文献	・小児の発達と看護 メディカ出版 ・山城雄一郎監 小児の病態生理辞典 へるす出版 ・筒井真優美 編小児看護学 日総研 ・桑野タイ子編 小児 I 中央法規 ・小島操子編 看護のコツと落とし穴 中山出版 ・病気がみえる ・家族看護学 日本看護協会出版会 ・雑誌 小児看護 こどもケア ・大国真彦 編 ナースの小児科学 中外医学社			
備考	・あらかじめ予定された発表会などの準備は、当日までに行う。(特に、資料等の配布) ・グループワーク等の演習・ワークの進め方について不明な点は担当教師に、早めに確認する。			

分野	専門分野Ⅱ	授業科目	健康障害のある小児看護と看護過程			
受講学年	2学年 / 後期	単位/時間数	1単位 / 30時間			
担当者資格	看護師	専門経験有無	有			
学習目標	<p>経過の長い健康障害の小児と家族について理解し、援助方法を学ぶ。 その家族の健康および発達上の問題を多面的にとらえ、看護を実践することができるように、必要な看護過程の考え方を習得する</p> <p>小児の特徴的な看護技術が習得できる</p>					
回数	学習課題	学習内容	方法	自己学習の指針		
1回～10回	慢性期にある小児と家族の看護	I型糖尿病 小児の自己管理	講義	慢性期の特徴 慢性期の看護の復習 疾患と治療の復習 病理学 運動器 精神保健看護学 脳神経 ピアジェの認知発達理論 母性看護学 新生児の看護 看護過程の復習 小児の成長発達		
	障害のある小児と家族の看護	小児慢性特定疾患医療費助成制度 先天異常 脳性麻痺 先天性股関節脱臼 発達障害 こころに問題がある小児の看護	講義			
	終末期にある小児と家族	脳腫瘍 けいれん 小児の死の概念	講義			
	アレルギー疾患	・アトピー性皮膚炎 ・食物アレルギー ・気管支喘息 気管支拡張薬(β2刺激薬)とステロイドの吸入薬				
	血液・造血器系	・白血病 ・血友病 ・アレルギー性紫斑病				
	腎・排泄系	・ネフローゼ症候群 ステロイドと副作用 ・糸球体腎炎				
	低出生体重児の看護	低出生体重児の特徴 NICU室の特徴				
	11回	事例学習	・RDS(呼吸窮迫症候群) オリエンテーション		ワーク	
	12回	事例学習	病像の作成 関連図の説明 経過表説明 生活像に向けて 社会像			
	13回	事例学習	全体像			
	14回	事例学習	看護計画			
	15回	まとめ 試験				
	評価方法	筆記試験 課題提出状況 ミニテスト 参加状況				
	テキスト	小児看護学概論 小児臨床看護総論 小児臨床看護各論			医学書院 医学書院	
	参考図書文献	・小児の発達と看護 メディカ出版 ・山岸節子 編 自分で描ける病態関連図 照林社 ・五十嵐隆、これだけは知っておきたい小児ケアQ&A、総合医学社 ・岡堂哲雄 小児ケアのための発達臨床心理学 へるす出版 ・山元恵子写真でわかる小児看護技術、インターメディカ ・今野美紀 編 小児看護技術 南江堂				
備考	・あらかじめ予定された発表会などの準備は、当日までに行う。(特に、資料等の配布) ・グループワーク等の演習・ワークの進め方について不明な点は担当教師に、早めに確認する。					

分野	専門分野Ⅱ	授業科目	健康増進の小児看護	
受講学年	2学年 / 前期	単位/時間数	1単位 / 30時間	
担当者資格	保健師	専門経験有無	有	
学習目標	小児の成長発達段階に応じた生活が理解できる 小児各期において健康増進のための関わりが理解できる 小児の生活行動自立に向けての援助が習得できる 小児を取り巻く家族がアセスメントでき、援助が理解できる			
回数	学習課題	学習内容	方法	自己学習の指針
1回 2回	小児の栄養	子どもの栄養 発達段階別の子どもの栄養の特徴と看護 授乳・離乳・食行動・食育	講義	概論第3章
3～6回	小児各期の特徴と生活	小児各期における形態的特徴・機能的特徴 成長発達段階に応じた生活と看護 子どもの排泄 子どもの活動(遊びと学習) 子どもの休息 子どもの清潔行動と衣服 子どもの環境と安全な生活(事故防止)	講義 DVD	概論第4～6章
7～9回	小児と家族を取り巻く環境	家族の特徴とアセスメント・家族への看護 法律と政策 児童福祉・母子保健 健康診査と学校保健 予防接種	講義	医療安全学 各論第19章 概論第7、8章
10回	小児のアセスメント	アセスメントに必要な技術 コミュニケーション・バイタルサイン測定 身体測定と身体的アセスメント	講義	総論第4章
11回	小児の生活援助と指導 (母性看護学と共催)	指導技術とは(指導計画の立案～評価) 乳幼児の成長発達の理解と援助 保育園演習オリエンテーション	G・W 演習Ⅰ	指導技術と小児の生活援助技術を学ぶための学内演習
12回～13回	保育園演習	乳幼児の成長発達の理解と援助	演習Ⅱ	
14回 15回	ともそだち教室 まとめ 試験	学童期にある小児の成長発達の理解と援助	演習Ⅲ	
評価方法	筆記試験 課題提出状況 演習参加状況			
テキスト	小児看護学概論 小児臨床看護総論 医学書院 小児臨床看護各論 医学書院			
参考図書 文献	・小児の発達と看護 メディカ出版 ・岡堂哲雄 監 小児ケアのための発達臨床心理 へるす出版 ・雑誌 小児看護 こどもケア ・山元恵子 監 写真でわかる小児看護技術 ・月刊 新聞記事からできた本 子ども ・家族看護学 日本看護協会出版会			
備考	・演習・ワークの進め方について不明な点は、適宜担当教師に、確認する。			

分野	専門分野Ⅱ	授業科目	母性看護学概論	
受講学年	1学年 / 後期	単位/時間数	1単位 / 15時間	
担当者資格	助産師	専門経験有無	有	
学習目標	人間の性と生殖について理解し、母性の概念およびその発達課題を理解する。 母性看護を必要とする対象を理解し、母性看護の機能と役割を学ぶ。 母性看護の対象を取り巻く社会の変遷と現状について学ぶ。			
回数	学習課題	学習内容	方法	自己学習の指針
1	母性看護の基盤となる概念を理解する	1 母性の概念 1) 母性とは	講義	母子保健統計、国の施策とその根拠となる法律について自己学習課題とする
2		2 人間の性と生殖(セクシュアリティ) 1) 性と生殖の概念と意義 2) セクシュアリティの発達と課題	講義	
3	3 リプロダクティブヘルス/ライツ 4 ヘルスプロモーション 5 母性看護のあり方	講義		
4	母性看護の対象を取り巻く社会の変遷と現状	1 母性看護の歴史 2 母子保健統計から見た動向 3 母子保健に関する組織と法律 4 母子保健施策からみた現状	講義 課題学習	
5		1 女性・家族のライフサイクル 2 母性の発達・成熟・継承	講義 グループワーク	
6	母性看護における倫理	1 生命倫理 2 看護倫理 3 母性看護における倫理	講義 グループワーク	
7	母性看護における安全管理	1 医療事故、医療過誤 2 母性看護における安全・事故予防	講義 事例検討	
8	試験			
評価方法	筆記試験			
テキスト	系統看護学講座 専門24 母性看護学〔1〕 母性看護学概論: 医学書院			
参考図書文献	看護六法 国民衛生の動向			
備考				

分野	専門分野Ⅱ	授業科目	周産期にある人の看護	
受講学年	2学年 / 前期	単位/時間数	1単位 / 30時間	
担当者資格	助産師	専門経験有無	有	
学習目標	妊・産・褥婦、新生児の身体的変化、心理的、社会的特徴及び新生児の特徴を把握し各期の看護について理解する。また褥婦の保健指導の意義、継続看護の必要性を理解する。また援助に必要な技術を習得する。			
回数	学習課題	学習内容	方法	自己学習の指針
1回 ～ 4回	1. 妊娠期における妊婦の看護	1) 母体に起こる変化 生殖器の変化、全身の変化 胎児及びその付属物の成長 2) 妊娠の徴候と診断・妊婦診察 3) 妊婦の保健指導 保健指導の目標 マイナートラブル・妊娠中の栄養 4) 妊婦の日常生活とセルフケア 5) 分娩準備教育 親役割の準備(母親・父親・家族) 6) 妊婦体操の実際	講義 講義 DVD 講義 DVD 演習 講義 DVD	各論第2章A～D
5回 ～ 7回	2. 分娩期における産婦の看護	1) 分娩の経過 分娩第Ⅰ期～Ⅳ期の看護 2) 産痛の緩和(補助動作、呼吸法) 3) 産婦の心理 4) 分娩の母児に及ぼす影響 5) 破水時の看護	講義 講義 講義 講義 DVD	各論第3章A～E
8回 ～ 10回	3. 産褥期における褥婦の看護	1) 正常な産褥経過 進行性変化・退行性変化を促す看護 2) 産褥の心理的特性 マタニティーブルー 3) 母乳育児支援 4) 産褥期の社会的特徴 母と子の絆(アタッチメント、母子相互作用) 家族とサポート 4) 保健指導と継続看護	講義 講義 DVD 講義 講義 DVD	各論第5章A～D
11回 ～ 13回	4. 新生児の看護	1) 新生児の特徴 初回排泄・生理的体重減少・生理的黄疸 2) 出生直後の新生児の看護 出生直後の評価・新生児計測・バイタルサイン 3) 生後1週間までの新生児の日常看護 小児合同演習	講義 講義 演習 実習室	各論第4章A～C
	まとめ 試験			
評価方法	筆記試験1回			
テキスト	系統看護学講座 専門25 母性看護学[2]母性看護学各論・医学書院 病気がみえるvol.10 産科 第3版			
参考図書 文献	随時提示講義			
備考				

分野	専門分野Ⅱ	授業科目	周産期にある人のハイリスク時の看護と看護過程			
受講学年	2学年 / 後期	単位/時間数	1単位 / 30時間			
担当者資格	助産師	専門経験有無	有			
学習目標	妊娠各期及び新生児におけるハイリスクな状況について理解し、その対象への看護について学ぶ。 正常な経過の事例展開から、ウェルネス思考で看護過程を展開する。					
回数	学習課題	学習内容	方法	自己学習の指針		
1回 2回	①妊婦の異常と看護	1) 流産・早産の妊婦の看護 2) 常位胎盤早期剥離・前置胎盤の妊産婦の看護	講義	各論第6章 A～E		
3回 4回 5回		1) 妊娠高血圧症候群・子癇の看護 2) 妊娠糖尿病・胎児機能不全の看護 3) 帝王切開・弛緩出血・産道損傷の看護 4) 子宮復古不全・乳腺炎の看護				
6回 7回	③新生児の異常と看護	1) 低出生体重児・高ビリルビン血症 2) 死産・グリーフケア				
8～15回		事例学習会(集中15時間) 看護過程を使った事例の展開			GW	
8～15回		1) 正常経過をたどる産婦の看護 2) 正常経過をたどる褥婦の看護 3) 正常経過をたどる新生児の看護				
評価方法	ペーパーテスト 事例(課題)の提出					
テキスト	系統看護学講座 25 母性看護学[2]母性看護学各論 医学書院					
参考図書文献	随時提示 ウェルネス診断にもとづく母性看護過程 医師薬出版社 事例・随時提示 看護過程にそった小児・母性看護実習 医学書院					
備考						

分野	専門分野Ⅱ		授業科目	女性のライフサイクル 各期における看護	
受講学年	1学年 / 後期		単位/時間数	1単位 / 30時間	
担当者資格	助産師		専門経験有無	有	
学習目標	女性のライフサイクル各期の特徴を理解し、母性各期に応じた看護を理解する。 妊娠・分娩・産褥各期および新生児の健康について理解する。				
回数	学習課題	学習内容	方法	自己学習の指針	
1	生命のはじまり	1. 妊娠の成立	ビデオ 講義	概論第3章A	
2	性周期 性の分化	2. 性周期 性分化 3. 性分化異常 半陰陽、性染色体異常			
3	思春期の健康と看護	1. 身体的・心理社会的特徴 ・第二次性徴 2. 健康問題と看護 ・月経異常、月経随伴症状	講義	概論第5章A～E	
4	成熟期の健康と看護	1. 身体的、心理社会的特徴	講義		
5		2. 健康問題と看護 ・子宮筋腫、子宮内膜症 ・子宮がん			
6	更年期の健康と看護	1. 身体的、心理社会的特徴 2. 健康問題と看護 ・更年期障害、ホルモン補充療法 ・尿失禁	講義	概論第6章A～F	
7	老年期の健康と看護	1. 身体的、心理社会的特徴 2. 健康問題と看護 ・子宮脱、子宮下垂	講義		
8	リプロダクティブヘルスケア	1. 家族計画 ・家族計画とは ・受胎調節法	講義		
9		2. 性感染症とその予防 3. 人工妊娠中絶と看護			
10	遺伝相談	4. 性暴力を受けた女性に対する看護 1. 発達と遺伝 2. 遺伝子医学の進歩と遺伝子診断 3. 遺伝相談	講義	各論第1章B	
11	不妊治療と看護	1. 不妊とは 2. 不妊の原因 3. 不妊の検査 4. 治療	講義	各論第1章C	
12	妊娠期における看護	1. 妊娠の生理 2. 胎児の発達とその生理 3. 母体の生理的变化	講義	各論第2章A	
13	分娩期における看護	1. 分娩の3要素 2. 胎児と子宮および骨盤との関係 3. 分娩の機序 4. 分娩の経過	講義 模型演習	各論第3章A	
14	産褥経過 新生児の生理	1. 産褥期の身体的変化 1. 新生児とは 2. 新生児の形態・機能	講義	各論第5章A 各論第4章A	
15		まとめ・筆記試験			
評価方法	筆記試験				
テキスト	系統看護学講座専門24 母性看護学概論:医学書院 系統看護学講座専門25 母性看護学各論:医学書院 系統看護学講座専門分野Ⅱ 女性生殖器 成人看護(9):医学書院 病気がみえる vol.10 産科 第3版 メデックメディア				
参考図書 文献	看護六法 国民衛生の動向				
備考					

分野	専門分野Ⅱ	授業科目	精神看護学概論	
受講学年	1学年 / 後期	単位/時間数	1単位 / 30時間	
担当者資格	看護師	専門経験有無	有	
学習目標	ライフサイクルと精神の健康について成長発達段階にそって理解し、精神的側面から人間を理解する。その上で精神看護の基本的概念を学ぶ。			
回数	学習課題	学習内容	方法	自己学習の指針
1	1. 精神看護学で学ぶこと	1)心のケアと現代社会 2)精神看護学とその課題 3)精神障害の体験と精神看護 4)精神看護で何を学ぶのか	講義	
2.3	2. 精神保健の考え方	1)精神の健康とは 2)精神障害のとらえ方 3)ストレスと健康の危機 4)回復を支える力	講義	心理学復習
4~8	3. 人の心のはたらきとパーソナリティ	1)人間の心の諸活動 2)心のしくみと人格の発達 a. ライフサイクルとアイデンティティ b. フロイトの精神力動理論 c. 対象関係論 d.ボウルビーの愛着理論	講義	心理学復習
9	4. 関係のなかの人間	1)家族 2)人間と集団	講義	心理学復習
10.11.12	5. 社会の中の精神障害	1)精神障害と治療の歴史 2)日本における精神医学・精神医療の流れ 3)精神障害と法制度	講義 DVD	社会学参照 映画「カッコウの巣の上で」
13	6. 精神看護の考え方とケアの原則	1)ケアの人間関係 2)看護における感情労働と看護師のメンタルヘルス	講義	
14	7. リエゾン精神看護			
15	まとめ・筆記試験			
評価方法	1. 課題提出 2. 筆記試験 3. 授業参加態度			
テキスト	系統看護学講座 専門Ⅱ 精神看護学〔1〕精神看護の基礎 医学書院 専門Ⅱ 精神看護学〔2〕精神看護の展開 医学書院 系統看護学講座 別巻 精神保健福祉 医学書院			
参考図書文献	精神看護学 情緒発達と看護の基本 メディカ出版 精神看護学 ころ・からだ・かかわりのプラクティス 南江堂 E. H. エリクソン: 幼児期と社会1. みすず書房 E. H. エリクソン: 幼児期と社会2. みすず書房 浜田 晋ほか: 精神医学と看護、症例を通して 日本看護協会 他、随時提示			
備考				

分野	専門分野Ⅱ	授業科目	精神看護の看護援助技術	
受講学年	2学年 / 後期	単位/時間数	1単位 / 30時間	
担当者資格	看護師	専門経験有無	有	
学習目標	1. 精神疾患の症状・問題行動が日常生活・社会生活に及ぼす影響とその看護が理解できる。 2. 精神障害を持つ人の看護過程の特徴が理解できる。			
回数	学習課題	学習内容	方法	自己学習の指針
1・2	精神科看護とは	1)精神障害者の処遇をめぐる歴史 2)1)に関連して改めて精神障害者とは精神疾患とは	講義	
3～5	入院治療と看護の展開	1)入院の意味	講義	
6・7		2)治療的環境 3)リスクマネジメント/隔離と拘束 暴力と自傷 4)回復を助ける	講義	
8～10	ケアの人間関係	1)患者－看護師関係のなりたち	講義	
11		2)患者－看護師関係でおこること 3)プロセスレコード		
12～14	事例学習	統合失調症患者の看護	講義 ワーク	
15	テスト			
評価方法	1. 筆記テスト 2. 課題提出 3. 参加状況			
テキスト	精神看護学[1]精神看護の基礎 医学書院 精神看護学[2]精神看護の展開 医学書院 他			
参考図書文献	坂田三允 編:心を病む人の看護 中央法規 坂田三允ほか 編:精神看護エクスペール6 統合失調症 中山書店			
備考				

分野	専門分野Ⅱ	授業科目	精神に障害を持つ人の看護	
受講学年	2学年 / 前期	単位/時間数	1単位 / 30時間	
担当者資格	看護師	専門経験有無	有	
学習目標	1. 精神医学の診断・治療とその看護を理解する 2. 主な精神疾患と治療・看護を理解する			
回数	学習課題	学習内容	方法	自己学習の指針
1・2	1. 精神症状 アセスメントと援助	1)さまざまな精神症状 (1)思考の障害 (5)意識とその障害 (2)感情の障害 (6)記憶とその障害 (3)意欲の障害 (7)局在症状 (4)知覚の障害	講義	
3	2. 精神障害の診断と 分類	1)診断と疾病分類 生物・心理・社会モデル DSMとICDの分類		
4～5	4. 精神科の臨床検査 5. 精神科での治療と その看護	脳波検査、知能検査、記名力検査、人格検査 1)薬物療法・電気けいれん療法 2)精神療法 3)環境療法・社会療法		
6～7	3. 主な疾患と治療・看護 1)統合失調症	(1)疾患の理解 (概念、症状・病型、治療、経過) (2)患者の看護 ①患者看護師関係 ②経過に応じた看護 ③主な症状とその看護 i 幻覚妄想状態の患者の看護 ii 昏迷状態にある患者の看護	講義 DVD	事前学習課題 小テスト
8～9	2)気分障害	気分障害の患者の看護 (1)疾患の理解 (2)患者の看護 ①うつ状態にある患者の看護 ②そう状態のある患者の看護	講義	
10	3)神経症圏の障害	神経症圏の障害をもつ患者の看護 (1)疾患の理解 (2)患者の看護 ①不安状態の患者の看護 ②強迫行為のある患者の看護	講義	
11	4)アルコール・薬物依存	アルコール・薬物依存のある患者の看護 (1)疾患の理解 (2)患者の看護	講義	
12	5)摂食障害 6)人格障害	摂食障害のある患者の看護 (1)障害の理解 (2)患者の看護 人格障害の患者の看護 (1)障害の理解 (2)境界型人格障害の患者の看護 (操作への対応)	講義 講義	
13～14	7)発達障害 4. セルフケアへの援助 まとめ・筆記試験	(1)発達障害 (2)発達障害者への支援	講義 DVD	「素晴らしきかな！人生」 or「ビューティフルマインド」
評価方法	1. 筆記テスト 2. 課題提出			
テキスト	系統看護学講座 専門Ⅱ 精神看護学〔1〕精神看護の基礎 医学書院 専門Ⅱ 精神看護学〔2〕精神看護の展開 医学書院 // 別巻 精神保健福祉 医学書院			
参考図書 文献	精神看護学 情緒発達と看護の基本 メディカ出版 精神看護学 ころ・からだ・かかわりのプラクティス 南江堂 坂田三允ほか 編:精神看護エクスペール6 統合失調症 中山書店 坂田三允 編:心を病む人の看護 中央法規 笠原 嘉:精神病 岩波新書 シュビン:精神病者の魂への道 みすず書房 伊藤順一郎:統合失調症 正しい理解と治療法 その他、随時提示			

分野	専門分野Ⅱ	授業科目	精神に障害を持つ人の生活の場と精神保健	
受講学年	1学年 / 後期	単位/時間数	1単位 / 15時間	
担当者資格	看護師、社会福祉士	専門経験有無	有	
学習目標	1. 我が国の精神医療看護の歴史を知り、精神障害者の人権尊重と倫理的配慮を理解する 2. 生活の場で生じる精神保健健康上の問題を知り、地域で生活していくために必要な援助とそれを支える支援システムを理解する 3. 精神障害を抱えて地域生活を送るための制度を学び、看護の実際について理解をする			
回数	学習課題	学習内容	方法	自己学習の指針
1	1. 精神医療看護の歴史	1) 我が国の精神医療福祉の変遷 2) 精神保健福祉に関する法と制度 3) 患者の権利	講義	
2,3	2. 生活の場と精神保健	1) 家庭における精神保健・看護 2) 学校における精神保健・看護 3) 職場における精神保健・看護 4) 看護師の精神保健・看護	講義	
4~7	3. 地域における精神看護	1) 精神障害をもちながら地域で暮らす人を支える 2) 地域移行支援・地域生活支援の基礎 3) 地域移行支援の展開 4) 地域生活支援の展開	講義	
評価方法	1. 筆記試験			
テキスト	系統看護学講座 専門Ⅱ 精神看護学〔1〕精神看護の基礎 医学書院 専門Ⅱ 精神看護学〔2〕精神看護の展開 医学書院 系統看護学講座 別巻 精神保健福祉 医学書院			
参考図書文献	・参考図書 精神看護学Ⅰ 精神保健学 ニューヴェルヒロカワ			
備考	・家庭、学校、職場、医療現場の現状と精神保健に関して、新聞・テレビ・ネット等により日頃から情報を集めておく。 ・既習内容とつなげるとよい。			